

ジョブ・カードの見直し後のコンセプト案

資料2

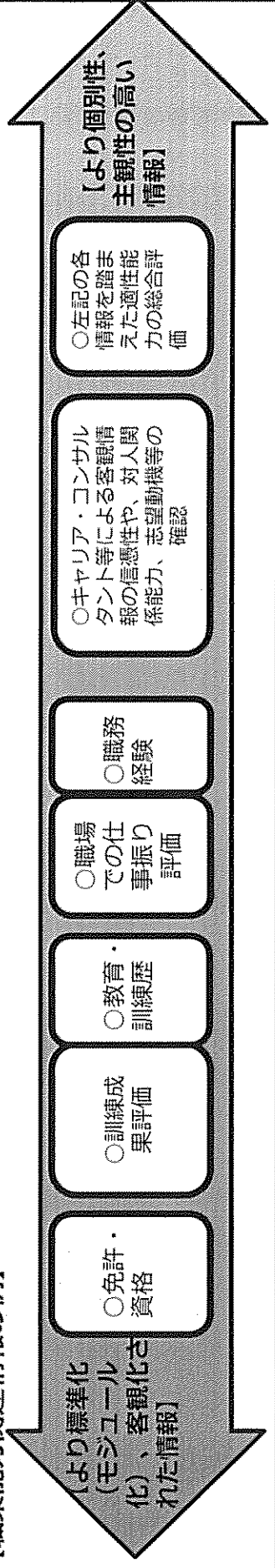
(ジョブ・カード見直し後の目的)

◆ 職業能力の見える化・マッチング

※キャリア・パスポート(仮称)構想研究会第1、2回の議論に基づき事務局にて整理したもの

○免許・資格、教育・訓練歴、訓練成果の評価、職場での仕事振りの評価、職務経験等の職業能力の諸情報を蓄積し、場面・用途等に応じ情報を抽出・編集し応募書類として活用する「職業能力の見える化・マッチングのためのツール」

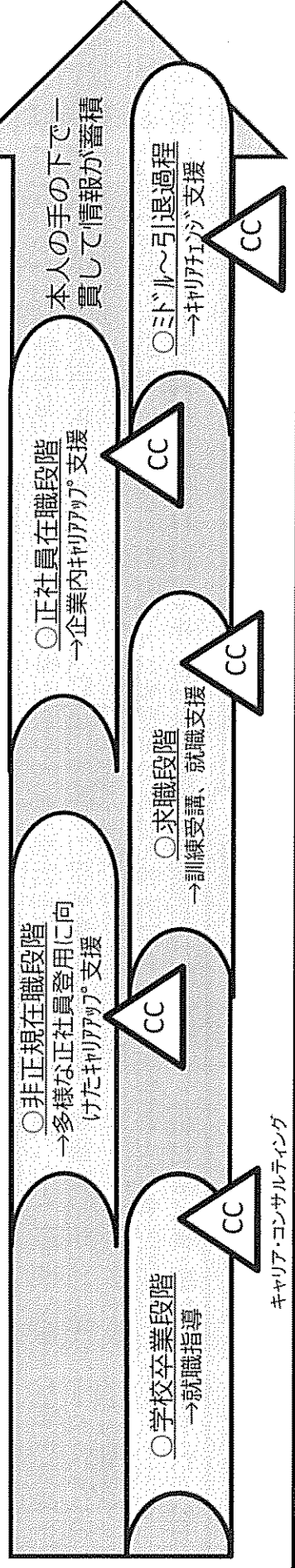
【職業能力関連情報の例】



◆ キャリア形成支援

○キャリア・コンサルタントの支援の前提となる個人の履歴や、支援を通じた職業経験の棚卸し、職業生活設計等の情報を蓄積し、訓練の受講、キャリア選択等の場面で活用する「キャリア形成支援のツール」

【個人の職業生涯での各課題に応じたキャリア形成支援の例】



キャリア・コンサルティング

(上記目的に照らしての現行ジョブ・カードの主な課題)

- 1) ジョブ・カードは、求職・求人時において、職業能力評価関係情報と併せて、キャリア・コンサルタントが記載する外部に出しにくいキャリア形成上の課題を含めた情報、JIS規格の履歴書とは異なる様式による履歴情報などを、まとめて活用することを求めていること。
- 2) ジョブ・カードの様式は主に求職者、職業訓練受講者向けであり、必ずしも、労働者がキャリア・コンサルティングを受けキャリア形成支援のために活用したり、労働者の実務経験を評価（職場での仕事振りの評価）するための様式となっていないこと。

(見直し後の形態)案

様式等は、①キャリア・コンサルタントが記載するキャリア関係情報を原則、個人が活用する情報（外部に提出する情報は個人が選択）とすること、②労働者の活用も想定するなどの変更。
学生等の入職段階から職業生活を通じて、関係情報を、電子化して蓄積し、場面に応じて抽出・編集して活用（JIS規格の履歴書の様式にも編集可能ななど）。

